



<CAM ベトナム・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年8月05日

アジア開発銀行のアジア経済成長率見通し（追補版）

ベトナムが東南アジアトップ

アジア開発銀行（ADB）がアジア経済の見通し（Asian Development Outlook (ADO)）補足版を発表した。

米中貿易摩擦や半導体サイクルの影響もあり、2019年の東アジア（香港、中国、韓国、台湾）については、成長率（予測値）が改定によって前回の5.7%から5.6%に引き下げられた。インドも7.2%から7.0%へ引き下げられている。

（下記一覧表参照）

一方、東南アジアではフィリピン、シンガポール、タイが引き下げられ、東南アジア全体でも4.9%から4.8%へと引き下げられた。

その中でも、干ばつとアフリカ豚コレラ（ASF）により農畜産業が打撃を受けたものの、製造業と輸出の好調が続くベトナムは、6.8%のままで据え置かれ、東南アジアではトップ、アジア全体でもインドに次ぐ2番目に高い成長が見込まれている。

国・地域		18年*	19年**		20年	
			前回	改定値	前回	改定値
東アジア	全体	6.0%	5.7%	5.6%	5.5%	5.5%
	香港	3.0%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%
	中国	6.6%	6.3%	6.3%	6.1%	6.1%
	韓国	2.7%	2.5%	2.4%	2.5%	2.5%
	台湾	2.6%	2.2%	2.2%	2.0%	2.0%
東南アジア	全体	5.1%	4.9%	4.8%	5.0%	4.9%
	ベトナム	7.1%	6.8%	6.8%	6.7%	6.7%
	インドネシア	5.2%	5.2%	5.2%	5.3%	5.3%
	マレーシア	4.7%	4.5%	4.5%	4.7%	4.7%
	フィリピン	6.2%	6.4%	6.2%	6.4%	6.4%
	シンガポール	3.1%	2.6%	2.4%	2.6%	2.5%
	タイ	4.1%	3.9%	3.5%	3.7%	3.6%
	インド	6.8%	7.2%	7.0%	7.3%	7.2%
	アジア全体	5.9%	5.7%	5.7%	5.6%	5.6%

* 実績

** IMF予想ではベトナムは6.5%、フィリピンも6.5%、インドネシアは5.2%となっている。
アジア全体は45か国・地域

出所：ADBのデータを基にキャピタル アセットマネジメントにて作成

以上